

書牘卷之一（五 往信）

寒中見舞状

一筆啓上いたし候、嚴

寒之砌爾に候所、益御機

嫌能目出度存候、僊

末なから、塩鱈五尾御

勝手迄相廻し申候、

御咲留下され候へは、本者

望之至爾に候、右時節

御様体相伺度、斯の

如爾くに御座候、以上、

※漢字は全て新字体に直したが、原文が旧字体に近い書体で書かれている場合は、右脇に旧字体を添えた。

※変体仮名は現行の平仮名に直した。なお、字母に当たる漢字を右脇に添えた。

書牘卷之一（五 返信）

御状披見いたし候、寒

さ厳しく候へとも、弥

御健全爾に涉らせられ、

珍重爾に存し候、扱者は

時節御尋として、塩

鱈五尾御心爾にかけられ、

浅春からす忝存候、取敢

へす御礼まで、草々以

上、

※漢字は全て新字体に直したが、原文が旧字体に近い書体で書かれている場合は、右脇に旧字体を添えた。

※変体仮名は現行の平仮名に直した。なお、字母に当たる漢字を右脇に添えた。